

岐阜の博物館

編集 岐阜市岩戸花月町 2の1
兼 濃飛甲冑研究所内
発行 岐阜県博物館協会
振替 名屋 28716



(上) くすり資料館のある内藤記念館全景。
(右) 明治初期の薬種屋の店頭実物展示。けっかい(帳場格子)の中に番頭、天井から生薬の入った薬袋、軒には袋看板がさがり、百味ダンス、帳ダンス、銭箱等どれも小道具類は本物である。

館・園 紹介 No. 8

内藤記念くすり資料館

羽島郡川島町 エーザイ川島工園内
〒483 TEL058689-3111 内線 301

見ておかねばならぬもの!



訪れてまず驚くことは、「エーザイ川島工場」ではなくて「川島工園」とあることである。木曾川の中洲に生えていた松林をそっくりそのまま残し、樹林間の空地に諸設備を施した自然公園そのもの、その自然を大切にしたい工園の一角に、合掌造りの近代的な鉄筋コンクリートの内藤記念館がそびえている。エーザイの創業者内藤豊次氏の業績を顕彰して、昭和45年5月に建てられたもので、3～5階が「くすり資料館」となっている。内藤記念科学振興財団が、事業のひとつとして開設されたものであるが、日本薬史学会の協力はあったとはいえ、実にすばらしい収集資料の数々である。紙面の都合でひとつひとつ紹介できないのが残念であるが、わたしたちの日常生活に密着した薬、そして薬の乱用が心配される今日、ここは、子どもも大人も、みんなが薬について楽しく勉強できる場所であるだけに、多くの方々の見学を促したい。そして、薬に対する正しい知識・理解にもとづいた、健康で明るい生活の送れる人間づくり、医薬の開発に立ち向かった先人の苦勞と努力、その根性ある人間づくり……くすり資料館は、実物資料を通してのユニークな教育機関であるといえます。一階・二階はロビー・会議室など、三階は図書室、生薬標本室、四階はくすりののはじめから富山の莞菜まで、五階は蘭学の勃興から近代薬学まで、そして六階にはエーザイの社史展があり、館の前庭には薬用植物園が目下整備中。現在約300種のもものが植えられ、今後は温室も(P.2へ)※

岐阜県博物館協会のみなさまへ

エーザイ川島工園 内藤豊次
内藤記念くすり資料館理事長

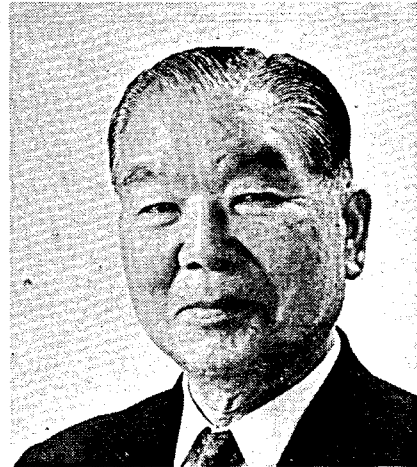
この6月12日、くすり資料館を開館いたし、みなさまの岐阜県博物館協会へ仲間入りさせていただくことができましたことを大変うれしく存じております。

私の会社は数年前に、木曾川畔の川島町で新しくご厄介になったもので、敷地の中に生えておる数万本の松の木は切り倒さずにそのままにして、その空地のところどころに工場や研究室や池を設けるという風致地域としたもので、この記念館もその施設のひとつです。

お聞きするところによりますと、県下には大小あわせて80余にのぼる博物館的施設があり、日夜一般大衆ならびに研究者のため、幅広い活動をなさっておられるとのこと、そのう えりっぱな機関紙によって、横の連絡をとりながら社会教育の進歩のため、ご努力されていることに對し、衷心より敬意を表する次第であります。

さて、今やわが国の健康科学および産業はこのところ急速に発達し、欧米先進諸国に追いつきつつありますが、一方過去の日本の薬学や薬業の発達を伝える資料や図書については、まだ及ばないものが多く、今日の機会において、これを取りまとめておかないと散逸して、後日に悔いを残すことになりはしないかと考え、これを財団法人内藤記念科学振興財団の公益事業のひとつとしてとりあげたわけであります。

その参考として、欧米先進国ではどうやっているかを見るため、私は一昨年各地を視察したのであります。どの国でも大なり小なりその設備を持っており、どの国にもくすりに関する博物館が早くから建てられており、実物資料を数多く所蔵し、整然と保管し、わかりやすく解説をつけて、誰が見ても一目瞭然にその国のくすりの歴史がわかるようになっておりました。わが国には、このような総合的なくすりの博物館がまだひとつもないことを遺憾とし、微力ながらも財団の手で、この意義ある仕事を推進いたしたく念願し、研究助成事業と褒賞事業にあわせ、第三の財団事業として、くすりに関する資料館を設立することになったのであります。



(内藤豊次氏)

何分にもわが国はじめてのことでしたが、日本薬史学会の清水藤太郎氏、木村雄四郎氏ならびに吉井千代田氏らの積極的なご賛同とご協力をいただきまして、とりあえず第一次大戦までの資料を展示することができました。

今回の展示は約一ケ年間常設的に無料で公開し来年度はテーマを改めて、薬業の現状と将来のビジョンについて、新しい構想を練りたいと存じますので、よろしくご願ひ申します。

みなさまのご参観を得まして、卒直なご批判を承り、改善をはかるべく関係者一同お待ち申しております。そしていっそう収集に努力して、内容の充実に努めたいと存じます。ご協力ご指導くださいますようお願い申します。以上をもってお願いかたがたご挨拶いたします。

(P-1より)建設、南方薬用植物も栽培されます。見学希望者は手紙or電話であらかじめ予約すること。宿泊希望者には、緑にかこまれた木曾川寮の利用も許可され食事別で1泊1,000円、朝夕の食事は厚生サロンでとれます。午前9時～午後4時まで開館。休館は毎週月曜日。名鉄新一の宮からバスまたはタクシーで約20分、新岐阜からはタクシーで約30分。どうしても、見ておかなければならぬ資料館です。(写真・文 小野木)

置県百年記念総合博物館の自然分野についての構想一案

岐阜県自然環境保全連合

その必要性

人類に多大の恵みを与えてきた科学の進歩は、大気汚染・水質汚濁といった一連の公害禍をもたらし、数々の動植物を絶滅に追いやったばかりでなく、人類の絶滅さえ心配させるまでになった。

人口が増大し、都市が発達し、産業が進んだ今日、わたしたち人類自身が、物質面だけでなく精神面においても、この限られた地球上に健全に生活し生存し続けるためには、自然界の秩序ある調和の姿を正しく知り、生存基盤である自然の緑と、それに被われた大地とを、いかに永続的に利用管理していくか……このことが、何にもましてさしせまった現代人の課題である。

こうした自然環境保全の根本は、県民ひとりひとりが、「ヒトと自然」に対する正しい認識を持つことにある。そのためには、幼児から老人までの全ての人間の生涯教育の場として（家庭・学校・社会各教育の場として）、博物館の自然分野が充実されなければならない。そして、自然環境保全センターとしての役割りを果たさなければならない。

ともすると忘れられがちな、ヒトと自然とのかかわりあい、その過去、未来の姿で描き出し、人々に語りかけ、問題を投げかけて、自然への正しい理解を助けるとともに、未来を創造する人間を育てること——これが、遠いようで、結局は最も効果のあがる自然環境保全の近道であり、ひとつの具体策でもある。

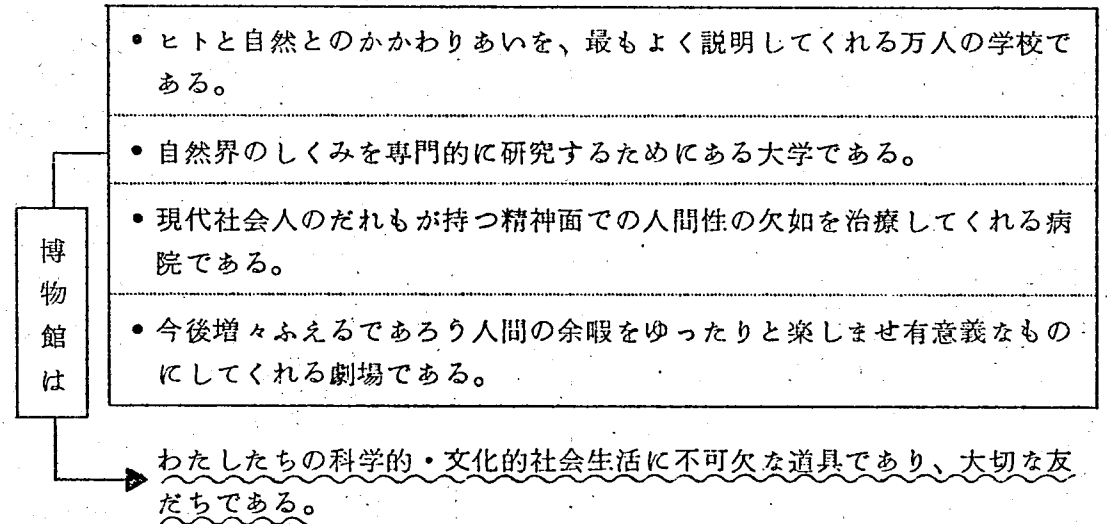
今や、自然環境保全の問題は、人類の生存の可否にかかわることだけに、何はさておき、まずそのセンターの役割りを果たす、自然科学の分野の充実と活発な教育活動こそが、県民の幸福な未来のために、県自体が卒先してとり組まねばならないことのひとつである。

その目的

今日を救いあすを創造する博物館の自然分野では、自然に関する正しい知識の普及がもとになり、そのために自然資料の収集・保管・研究が必要となる。

博物館は人々に見る楽しみを与え、人々に問いかけ、語りかけ、未来への探究心と創造性を開発し、人生を考えさせる場所でなければならない。

したがって、自然部門の展示室は、次のように考えることができる。



自然部門における展示構想案

今までのように、岩石・鉱物・化石・動物・植物といったような、物による部屋割りや分類中心の展示に終わることなく、ヒトと自然とのかかわりと、岐阜県という最も魅力ある郷土を中心材料にし、自然環境保全を主テーマとした配列展示がなされなくてはならない。

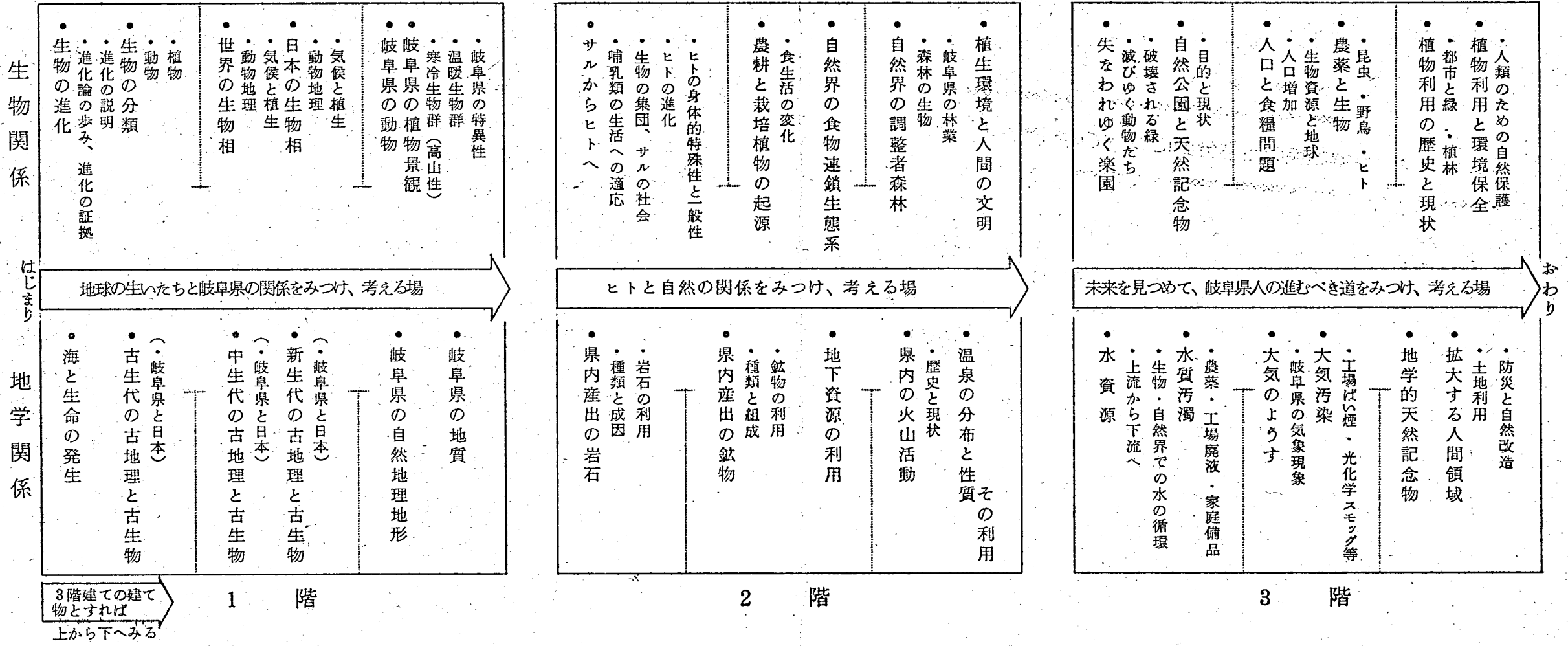
できれば自然科学博物館の独立棟にしたい。記念公園全体が博物館学的に運営されることはいうまでもない。

次に示すモデルは、実物標本を主に生態展示を中心とする。

第 1 展示室

第 2 展示室

第 3 展示室



展示室以外の最低必要施設

展示公開だけの死んだ博物館ではなく、その目的を充分達成し、教育活動を活発にするためには、最低限次のような施設も整えられなくてはならない。

- ＊研究室 6 室
- ＊作業室 2 室
- ＊相談室 2 室
- ＊写真暗室 1 室
- ＊図書室 1 室
- ＊レクチャールーム 1 室 (暗幕、映画装置付)
- ＊コンピューター・システムによる資料保管室 4 室
- ＊コインロッカー室
- その他

資料収集について

以上のような自然の部門が、真に県民への総合大学として、活動し効果を上げるためには、十分な資料が必要なことは云うまでもない。それだけの資料が集まっている

いから、自然分野は作れないのだ…… というのでは、いつまで待ってもできる訳がない。むしろ逆である。岐阜県は、日本の中でも最も自然的には変化に富み、学術的にも価値高い、誇り高い自然王国であるのに、自然史的には暗黒地帯である。それだからこそ、まず、自然分野を設立し、そこが中心となって、調査研究を推進しながら、2年計画、3年計画……といったように資料収集を行ない、館内を充実させる方向で進むべきである。

また、郷土岐阜県には、古くから数々の自然研究諸団体、同好会等があり、それぞれが着実に郷土の自然研究に努めてきた。そうした中には、数えきれない程たくさんの、しかも貴重な資料が埋もれている。幸い、本連合には、たくさんの自然部門の研究會や同好會が参加している。県下全体にわたる諸資料の提供を呼びかける等の具体的協力も今後できるものと考えられる。

博物館の起源と目的

—— くすり資料館開館式記念講演(要旨) ——

アメリカ国立スミソニアン博物館医薬部長 サミ・ハマネ博士

「博物館」という言葉は、英語のミュージアムといますが、語源はギリシャ語のミュージオンという言葉からきております。それは、古代ギリシャ時代の、ミューズの神々に奉仕する神殿のことで、ギリシャ神話にでてくるミューズの神々によって支配された、工芸・芸術・音楽・天文学……等々の調査と研究をする場所のことをミュージアムとっているわけです。初期の博物館は「研究するところ」であったわけです。

しかしその後アラビア人の支配下になってメチャメチャになり、16-17世紀にかけて、博物館は単なる法王や王族貴族のコレクションといったものにかわっていくわけですが、1660年頃、英国でエリアス・アシュモールという人によって、研究するためのコレクションという初期の考え方が復活します。彼はコレクションをオックスフォード大学に寄贈し、現在のアシュモリアン博物館ができます。公共の大学博物館のはじまりとなったわけです。

米国では欧州のような博物館の歴史ではなく、市民のための博物館という形で発達してきております。チャールストンの自由協会に集められたものを1733年に公開したり、肖像画家が、はく製を市民に公開し、これが市立博物館に発展したり、国立歴史学会が、積極的に州立博物館や大学博物館をどんどんつくっていく計画をすすめてきました。

博物館の(あなたの館園は広義の博物館です — 編者註 —)目的は、知識の普及ということが原則ではありますが、その上に研究を増進させるためのものでなければなりません。ルイス・アーガシスというハーバート大学教授は「物品の保存だけでなく、偉大なアイデアを鼓舞して、将来に対する探究心に火をつけ、人生の神秘をよりよく理解させるものである」といっております。博物館というものは、みる楽しみだけのものでなく、人間の創造性に興味をそそる開眼者でなければならぬし、美術的経験を豊かにするガイドでなければならぬし、発明と探究に向かう勇気を起こさせる手段でな



講演中のサミ・ハマネ博士
一九二四年ヨルダンの生まれ。アメリカ国立スミソニアン博物館の医薬部長。

ればならないということです。

したがって博物館は、学校でないけれども教育の一環であり、大学でないけれども研究のためにあり、病院でないけれども治療してくれ、劇場ではないけれども喜ばせ、ゆったりと楽しませてくれるところであるということでもあります。

近代における博物館は、科学の分野別に、あるいは産業別に、専門的なものへ発達して行くでしょう。さらに博物館は、国と国とを結ぶ文化の橋渡し役にもなるわけで、「文化の国連」ともいえるものであります。それは、多くの人に公開され、外国人にも、観光客にも楽しむことができるようなものとして整備され、自国の文化だけでなく、他国の文化についてもよく理解し、評価することに大いに役立つものとなるでしょう。

この意味においても、日本ではもちろん、東洋でもはじめての「くすりの博物館」が、今日ここに公開のはこびになったことは、まことによるこばしい次第であります。この博物館をみますと、ちょうどポトマック河畔に咲いているあの美しい日本産の桜の花を眺めているような感じがします。

(本要旨の資料は、くすり資料館事務局の青木充夫氏の好意により、エーザイKKの社内誌「ロータリー」によります。 文責 宮崎)

≡ 県内ニュース ≡

上宝村福地温泉に 化石館・民俗資料館オープン

「福地の化石」として学術書・図鑑などに登場する数々のデボン紀の化石の産地、吉城郡上宝村の福地温泉に、旅館経営者山腰悟氏(48)が、私財を投じて化石館を建設され、8月11日にオープンしました。はちの巣サンゴ、太陽サンゴ、四射サンゴ、腕足貝、直角貝など、三億五千万年—三億年前までの化石のほか、国内外の珍しい化石五百点が展示された、新築六十六平方mの化石館からは、五百mほどの遊歩道も整備され、自然に化石が出ている野外観察への配慮もなされている。

また同家に伝わる民俗資料も公開され、三百三十平方mの旧家を改築して、奥飛驒の調度品、民芸品を展示し、民俗資料館として同時にオープンしました。「教育の場として、お役に立てば」と、山腰さんはとても熱心、ぜひお出かけください。

陶磁器陳列館無料公開へ

多治見市陶元町の旧岐阜県陶磁器試験場は、美濃焼の貴重な文化遺産を一堂に保存展示し、発展への足がかりとして活用されることを願って、「陶磁器陳列館」として、8月14日から無料公開されました。日本陶磁器史に残る縄文、弥生時代の土器をはじめ、奈良・安土・桃山・江戸・明治・大正・昭和に至る美濃焼の貴重な古陶器や古窯発掘の陶片など、約二万点が展示され、今後は、全国的な陶磁器やロクロ、築炉道具、図書類も収集公開していく計画で、美術に、産業振興に、大いに役立つ施設となりました。

編集後記 ◎イギリスの大学へ移られた経済学者の奥さんから、最近次のような便りをいただきました。(ロンドンに限らず、地方の町にも、いろいろ施設があり、子どもたちがどれだけそれによって勉強になるかわかりません。もちろん大人も多勢来ています。自然博物館でも、年中公開のLectureがあり、休み中は、特に子ども向のものが沢山

岐阜県自然環境保全連合結成

歴史・民俗・文学・美術・そして科学と、人類の持ち得る全ての文化の土台である自然……そして、人類の生存基盤である大切な自然……その自然界の調和ある生態系が、いたるところでこわされ狂わされている現代、自然環境の悪化は公害を例に出すまでもなく、人類を破滅させるまでに進んでいこうとしています。この暴威をくい止め、郷土を守り抜き、人類の末長い繁栄を目差して、岐阜県自然環境保全連合が発足しました。自然科学研究諸団体は云うに及ばず、各種文化団体、婦人会、医師会、青少年団体等、とりあえず参加40団体で発足し、本岐博協も団体会員として加入しました。個人加入も歓迎しているとのことですので、是非多数加入して下さい。会長は、今西錦司岐大大学長、当面の事務局は、

〒500 岐阜市司町15 岐阜中日会館内

〔岐阜城〕 岐阜市金華山頂では、7月25日～8月1日、岐阜城お城まつり実施。兜・千成びょうたんの当るラッキーくじや15周年記念パンフレット・絵葉書等を贈呈。投句会・写生会実施。

上記パンフレットは「岐阜城再建15周年記念」と題した岐阜市観光課よりの出版。P.10非売品。

〔吉田幸平本協会事務局長ソ連へ〕 8月5日～20日まで、ソ連ラトビヤ共和国での社会体育・社会教育の国際会議に参加。オリンピック協議会の派遣団員としてだが、社会教育、特に博物館についても多く見聞。当地のようすを、本誌でも紹介の予定。

あります。とにかくそういう点で、日本は百年の遅れがあります。—云々)と。

◎博物館学の参考文献すら、ほとんど町の書店で見かけることのできない日本です。サミ・ハマネ博士の講演は、学ぶべき内容多きものです。全内容紹介できないのが残念です。

◎あと徳川300年ほどもたない—人類の生存。全ての人か自然環境保全に関心を(Sab)